3月・4月の管理ポイント

平成２１年2月２５日
株式会社トモグリーン・ケミカル
ホームページアドレス
http://www.tomo-green.com/
第９８号

2月の天候は寒暖が交互に繰り返されて安定しない日々が続いていますが、3月も啓蟄を迎える頃には、虫も植物も動いてきます。これからシーズンを迎えるに当り、しっかりとした準備をしていきましょう。

レボ（REVO）

春先の灌漑管理が重要です…

春の水管理が芝生の根をしっかり伸ばすポイントです!!
レボは土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆いますので、土壌中の空隙率がアップし、尚且つ、表層の過湿を防ぎます。グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え、下層に伸ばさせるためにも、この時期からの定期散布が重要となってきます。常に根が下に伸びやすい環境を整えてやり、夏が来るまでにしっかりと準備しておきましょう。
使用量：レボ 2ml/㎡　散布水量：200ml～1L/㎡　散布回数：1ヶ月に1回

サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には…

3月、4月の更新作業時に処理することにより、グリーンのサッチ層を軽減しましょう。
他の微生物由来のサッチ分解剤とは異なり、酵素を主体としているので土壌中でも安定して働きます。
そして農薬類の混用や近接散布が可能。
使用量：1～2ｇ/㎡　0.5L/㎡散布　使用回数：月1～2回

みみんず水和剤

ミミズの糞塚防止には…

3月、4月は、ミミズが活発に動き回り糞塚が多くなる時期です。
ミミズは薬剤耐性というより、「なれ」が発生して、同じ薬剤を使い続けると効果に鈍感になります。
ですから先ず「みみんず水和剤」を基幹剤として、ローテーションに他の登録薬剤を組み入れられ、ご使用することをお勧めします。使用する時は、降雨後や朝か夕方の散布がお奨めです。
使用量：1000倍　2L/㎡

グリーンメカ・メカプラス

芝生の貯蔵養分を補うために…

3月、4月は、休眠明けの植物が生長する時期です。
特に3月上旬の萌芽期は、一斉に芽出しさせることが重要です(生育のバラツキをなくす)。
休眠前に貯蔵しただけでは不足しがちな糖類、ミネラルをグリーンメカ、メカプラスを処理することによって、補っていきましょう。
使用量：5～10ml/㎡　1L/㎡以上

カラーマーカー・L

(カラーマーカーは当社の ®です)

除草剤散布のマーキングには…

春の除草剤散布の際、散布箇所のカラーマーカーに《カラーマーカー・L》をご使用下さい。
食用色素を主成分とした、環境にも配慮された商品ですので、安心してご使用いただけます。
従来の粉末タイプからリキッドタイプにすることにより濃淡(倍率)調整が容易になり、価格も安くなりました。
使用量：3000～5000倍(倍率は芝生や主剤の色あいにより自由に調節してください)

マメ知識

株式会社トモグリーン・ケミカル

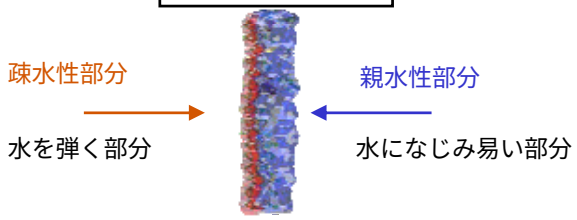
撥水性物質として有機酸を考えてみる

グリーンのドライスポットや排水不良の原因は、疎水性有機物質(難しい言葉でスイマセン)といわれる有機酸や菌糸でできた撥水物質が土壌粒子に付着することによって起こります。
では有機酸とはどんな物質なのでしょう？

有機酸

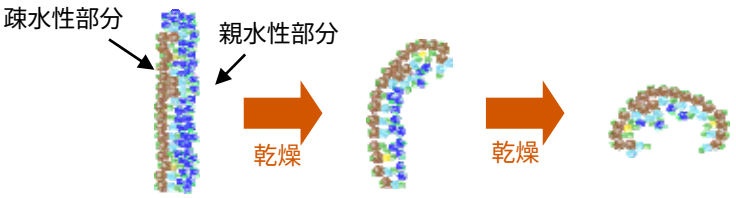
- 植物の分解したもの
- 微生物が堆積したもの
- 植物浸出(分泌)物

有機酸の構造



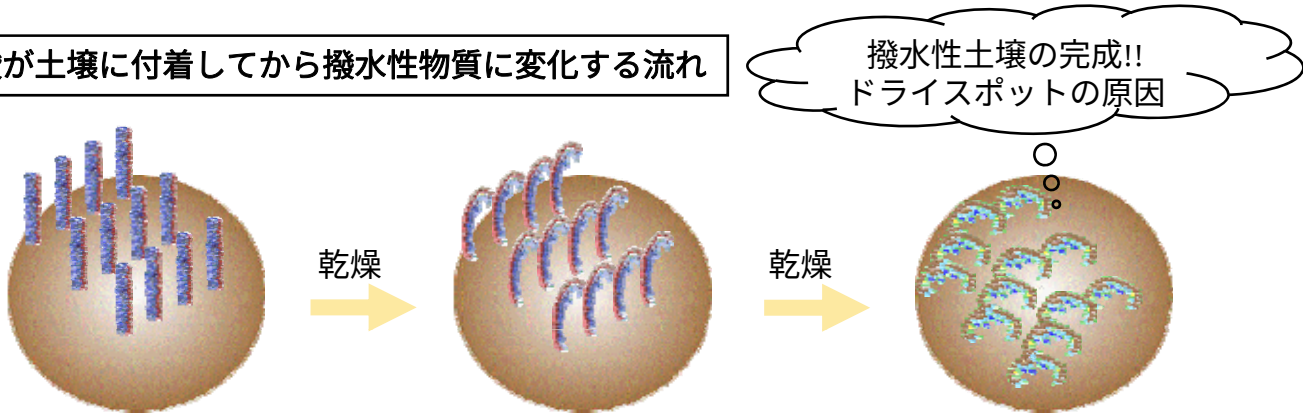
有機酸は、疎水性と親水性の両方を併せ持つ物質(両親媒性物質)

有機酸の構造の変化



有機酸は乾燥が進むと親水性部分が縮小し、上図のように構造が変化する。
一度変化した有機酸は再び水を補給しても元に戻らない。

有機酸が土壌に付着してから撥水性物質に変化する流れ



有機酸が土壌粒子に付着する

乾燥すると有機酸の構造が変化する

さらに乾燥が進むと土壌粒子表面を疎水性部分が覆うようになる